

内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) について

内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) は、口から内視鏡を入れ、胆管・膵管に細い管および造影剤を注入し詳しく調べる検査です。ERCP では胆管・膵管の細胞を採取することができます。CT や MRI、超音波内視鏡 (EUS) で腫瘍 (がん) が疑われる場合、ERCP で細胞を採取し最終的な診断をつける重要な検査になります。さらに ERCP では腫瘍等によって閉塞性黄疸になった場合のドレナージ、総胆管結石を除去する治療内視鏡でも力を発揮します。

検査のながれ

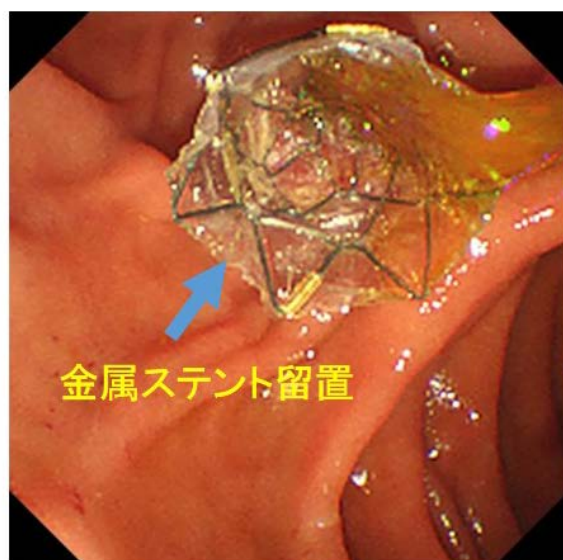
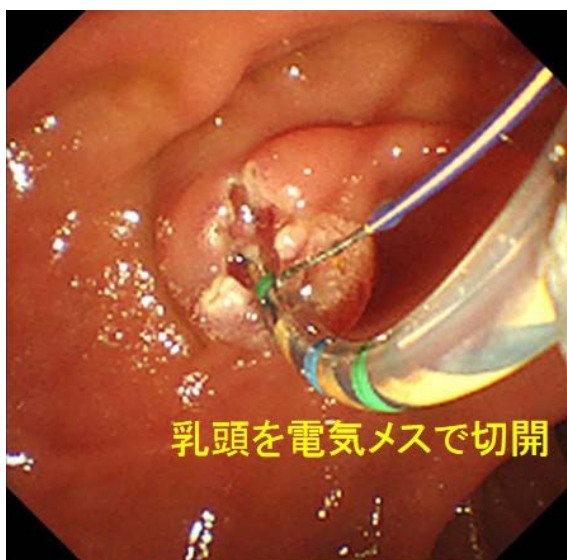
ERCP は全例入院で行います。検査当日は禁食とし、検査前に喉に局所麻酔をします。その後うつぶせとなり、患者さんの苦痛がないようにするために、点滴から鎮静薬 (眠くなる薬) を入れ眠っていただきます。その後、口から内視鏡を入れ検査・治療を行います。検査・治療時間はおよそ 30 分から 1 時間程度となります。



まず口から内視鏡を入れ、食道・胃を通過して、十二指腸にある主乳頭へ到達します。主乳頭は胆管・膵管の入り口となっており、この主乳頭から胆管・膵管に器具を入れて検査を行っていきます。



主乳頭に太さ数ミリの特殊なワイヤーとカテーテルをいれます。カテーテルの先端から胆管もしくは膵管に造影剤を注入します。右の写真は胆管に造影剤を入れた写真です。白く写っているのが胆管になりますが、膵がんにより3cm程度胆管が狭窄（狭くなること）しています。この患者さんは、膵がんによる胆管狭窄が出現し、腹痛・黄疸を呈していました。



乳頭を電気メスで切開した後に、狭窄を解除するために胆管内に金属ステントを留置しました。治療時間は20分でした。ERCP後は、翌日に採血を行い、合併症がないことを確認し食事開始となります。

当院における ERCP

当院では膵臓・胆管・胆嚢疾患に対して内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）により、膵がん・胆管がんの診断および胆管炎・閉塞性黄疸や総胆管結石に対する低侵襲な治療（身体の負担が少ない治療）に力を入れております。

当院における ERCP は年々増加傾向であり（下図参照）、患者さんに安心して検査を受けることができる体制を整えています。

さらに近年高度医療施設で普及している ERCP 困難例に対する胆道ドレナージ（EUS-BD）や術後再建腸管など、胆膵疾患における高度な内視鏡治療も提供しております。

お困りのことがございましたら、お気軽にご相談ください。

